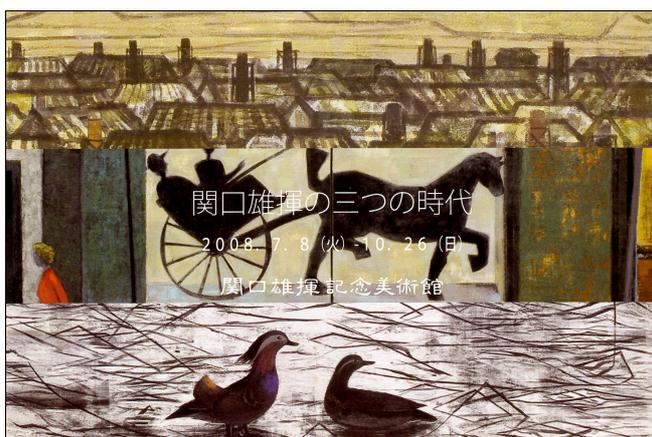


展覧会名：関口雄揮の三つの時代

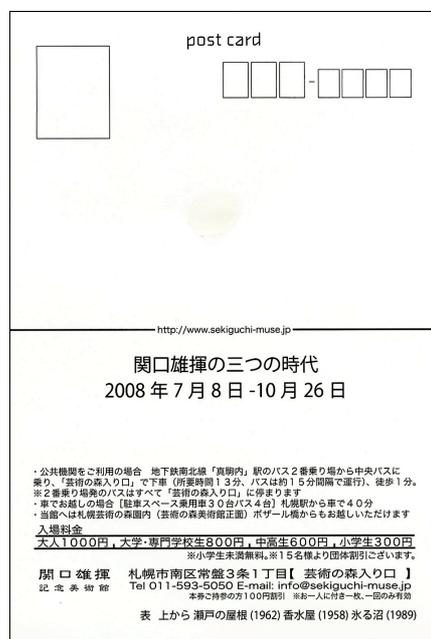
会期：平成20年7月8日（火）～10月26日（日）

概要：1923（大正13）年に生まれ、戦後の動乱期を生き抜いてきた関口雄揮は、フランスへの留学、抽象表現への挑戦、北海道の風景との出会いといった経験と遍歴を積み重ねながら、今日に至るまで、その作風を様々に変化させてきた。そしてまた、それぞれの時期が明確な特徴をもち、意識的な変化が試みられてきたとも見て取れる部分があることは興味深い。

本展では、そうした変遷に「三つの時代」という区分を設定し、日本画家として独自の境地を目指した関口の苦闘の様子を回顧する。本展第一部では1954年から55年にかけてのフランス留学時代のスケッチ作品を展示し、エコールドパリの画家たちに憧れながら、日本画的な線の描写への愛着を深める過程を探る。また第二部では60年代前半の抽象表現の取り組んだ作品を展示し、写実的な風景に非現実的な彩色を施す実験的な手法において、後年の作品に表れる色彩感覚の根源を探る。さらに第三部では70年代以降に確立された「モノクローム」の作品を中心に紹介し、描くべき対象と出会うことで、それまでに培われた線や色彩の感覚がどのように昇華されていったかを辿ってみたい。



フライヤー表



フライヤー裏